

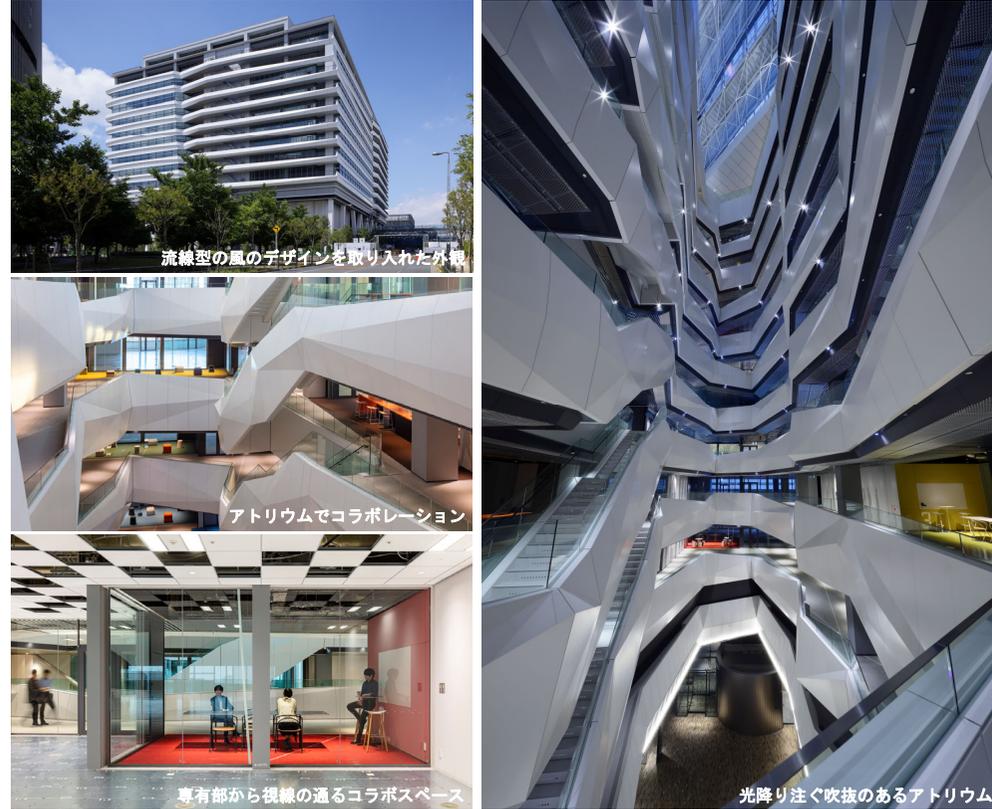
メブクス豊洲

MEBKs TOYOSU

No. 10-067-2021作成
新築
事務所

発注者	清水建設株式会社投資開発	カテゴリー	
設計・監理	清水建設株式会社 SHIMIZU CORPORATION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術
施工	清水建設株式会社	C. 各種制度活用	D. 評価技術/IB
		E. リニューアル	F. 長寿命化
		G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性
		K. その他	

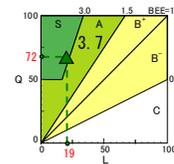
多様なニーズの対応していくクリエイティブオフィス



環境と健康に配慮したトップライト/クレパスのように光を導く吹抜パネル

広大なプレートオフィスでも、外部の環境を感じながら健康的に働ける場所を目指した。そこで、空調負荷がかかる直射光は極力カットし、反射光が効果的に吹抜空間を満たす屋根の形状を、デジタルツール（Shimz DDE*）を用いながらフィードバックを繰り返し、デザインを発展させた。そこから降り注ぐ間接光は、吹抜を通して2階のエントランスまで到達させている。アトリウムの吹抜パネルは、トップライトの光を下に導くクレパスのような形状を目指して、凹凸やパネル割のパラメトリックスタディを重ね、明るさ感によって形状を決定した。設計者自身がデジタルツールを使うことで、迅速なフィードバックによってアイデアを発散し、デジタルツール（Shimz DDE*）を用いながら、検証によって収束させることができた。

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	BPI	Sランク
竣工年	BEI	BEE=3.7
敷地面積	ERR	2016年度版
延床面積	BELS認証☆5	自治体提出
構造	ZEB Ready	
階数		



豊洲の環境を活かしたまちづくりとスマートシティ

計画地は、周辺に環状2号線と首都高速晴海線が開通し、さらにゆりかもめやBRTが定着する交通の結節点である。この位置に国際ビジネス交流ゾーンとしてミチノテラス豊洲を計画した。本施設はその中枢である。敷地のゆりかもめ側にある本施設と水辺側にあるホテル棟を貫くように、ゆりかもめと水辺（船着場）をつなぐ貫通路を設けた。各インフラをつなぐことで多様な賑わいを生み出す。計画地中央には交通広場を設け、BRTなどの公共交通の拠点をつくり、地域の玄関口として機能させた。また、豊洲エリアは、2019年5月に国土交通省スマートシティモデル事業において先行モデルプロジェクトに選定され、同年11月に「豊洲スマートシティ連絡会」「豊洲スマートシティ推進協議会」が設立されている。清水建設は幹事企業の1社として、地方公共団体や豊洲関連企業、技術提供企業と連携しながら、まちの課題解決に向けた取り組みの検討を進めている。成長途上にある豊洲エリアにおいて、先進的技術と都市OSの活用により様々な分野でサービス・ソリューションを提供。個人々のニーズ充足と満足度向上、まちの課題解決を図るとともに、多様な施設・個人が共存・共栄する「ミクストユース型未来都市」の実現を目指した。



多様なニーズに応えるスーパーフレキシブルオフィス

メブクス豊洲では様々な部門部署を1フロアに集約できるようなピックプレート計画し、水平方向のつながりが生まれるように計画した。レイアウトのフレキシビリティに対応し、ヘビーデューティーゾーンやパントリーを自由に配置できる計画とし、また、多様なニーズにこたえられるポテンシャルフロアを設けることで、専門的な要望にもこたえられることができるフロアを用意した。中央にはアトリウム（吹抜）やコラボスペースを設け、コミュニケーションを誘発する仕掛けを設け、専有部にはバルコニーを設け、リフレッシュすることもできる仕掛けを設けた。



基準階平面図 105m x 80mのピックプレート
サステナビリティ

電力および熱の供給は、隣接するホテル棟と一体で面的に計画することで、通常時のエネルギー需要の平準化と、災害時の信頼性の向上を図っている。カーボンニュートラルに向け、様々な省エネルギー技術を導入している。高効率のDHCからの熱供給を受け入れ、顕熱潜熱分離空調（空調機+ドライFCU）、外気冷房、全館LED照明の採用等により省エネルギーを徹底することで、BELS認証においてZEB Readyを取得している。

設計担当者

建築：今井宏 加藤明司、堀中智博、竹内順、谷津武志/構造：久保山寛之、池尻佳朗、梨本優也/設備：高橋 満博、堀 哲也、菅 裕之、加藤 勇樹 開発設計：國嶋区 丸山祐香 宮原夢未（清水建設㈱）ランドスケープデザイン：渡辺高史、大山京津美（㈱フィールドフォー・デザインオフィス）/照明デザイン（外装・外構照明）：永津努（㈱フェノメノライティングデザインオフィス）

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q1. 3. 光・視環境（吹抜、分散コア、トップライト）
- Q2. 1. 機能性（天井高の高い執務フロア（ポテンシャルフロア）、免震構造）
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（耐潮性のある植栽計画、敷地を貫く貫通路、交通広場、多様なオープンスペース）
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制（高性能Low-eガラス、バルコニーによる庇効果）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（照明・照度センサー制御、太陽光発電、顕熱潜熱分離空調、地域冷暖房）
- LR2. 1. 水資源保護（節水型機器、雨水利用）

